

4021 新島村・神津島村における農業担い手の育成と生産・流通の振興

対象集団 新島村農業協同組合あしたば生産者部会（2人）
新島村農業協同組合生産物直売部会（10人）、新島村野菜生産者群（5人）
神津島花卉園芸振興会（19人）、神津島農業協同組合あしたば生産者部会（21人）
神津島農業協同組合パッションフルーツ部会（5人）

地域の紹介

新島村は新島と、式根島の2島からなる行政区である。主要作物はアシタバ、サツマイモが挙げられ、令和3年の農業産出額は98百万円である。そのうち、アシタバが33百万、サツマイモが22百万であり農業産出額の53%を占める。しかし、栽培農家の高齢化等により、出荷量、販売額とも減少している。

神津島村の主要作物はレザーファンとアシタバが挙げられ、令和3年の農業産出額は86百万円である。そのうち、レザーファンが17百万、アシタバが59百万でありの農業産出額の88%を占める。神津島も新島と同様に栽培農家の高齢化等により、出荷量、販売額とも減少している。近年はパッションフルーツの栽培が増加してきている。

選定理由・目標

1 選定理由

(1) 農業担い手の育成

新島村・神津島村では、生産農家の高齢化に伴い農家数が減少している。しかし、一方で商店や民宿を営む住民が自給的農業から兼業農家を志向するなど、新たな担い手が生まれる兆しがある。地域農業を発展させるには、対象集団の維持や生産量の確保が必要であり、新たな担い手の確保・育成が課題である。

また、新たな担い手が定着するには、収益の確保が必要となる。確実に収益を得るために、島内流通については収穫期や品目の拡大、島外流通用については新たな品目の検討が課題である。

(2) 流通システムの構築

確実に収益を得るために、島内外共に販売先の拡大が必要である。これまで、農家がそれぞれ販路開拓を行ってきたが限界がある。販売先の拡大に向け、農家が協力し出荷する流通システムや、島外出荷の販路の多角化が課題である。

(3) 特産品の安定生産

新島はサツマイモとアシタバ、神津島はレザーファン、アシタバが代表的な農作物である。しかし、近年の高温等の気象の変化により、病害虫・栽培技術面で農産物の栽培に苦慮している。現状の気象状況・農家の状況にあった病害虫防除・栽培技術の普及が課題である。

2 目 標

(1) 農業担い手の育成

- 1) 島内用野菜生産農家の育成(新島村・神津島村)
販売農家の増加 (6名)
- 2) 島内流通用野菜生産の拡大(新島村・神津島村)
直売用野菜の収穫期拡大 (3品目)、直売モデル作成 (1事例)
島内流通有望品目の検討 (5品目)
- 3) 島外流通用新品目の検討
島外流通有望品目の検討 (2品目)

(2) 流通システムの構築

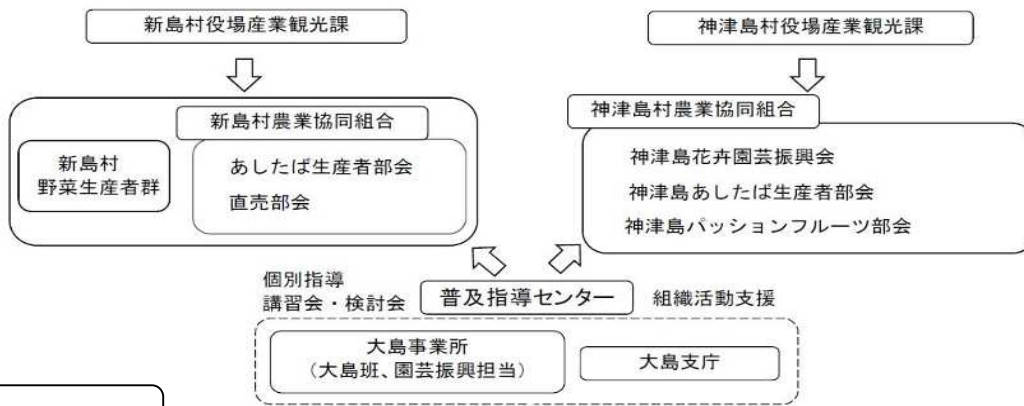
- 1) 島内向け流通システムの構築 島内販売の組織づくり
販売組織立上げと安定した運営 (1組織)
- 2) 島外向け流通システムの構築 市場外流通の取り組み
島外向け販路の充実 (2件)

(3) 特産品の安定生産

- 1) サツマイモの生産拡大
種苗供給体制の構築、サツマイモ出荷量 (3t)
- 2) パッションフルーツの安定生産
安定生産技術の定着(2技術)、可販果果実の割合増加
- 3) アシタバの安定生産技術の導入 技術の定着
アシタバ増収 (1000kg/10a)
- 4) レザーファンの高品質化・病害虫の防除
共同防除体制の構築と維持 (1組織)

活動の体制

大島事業所新島班が中心となり、大島事業所や支庁、各島の役場・農業協同組合との連携のもと活動した。



活動の概要

1 農業担い手の育成

(1) 島内用野菜生産農家の育成(新島村・神津島村)

新たな担い手を確保するため、地域住民に対し防災無線、ケーブルテレビを活用し農業相談を広く周知し、農業に興味を持つ住民に直接農業相談を行った。

(2) 島内流通用野菜生産の拡大(新島村・神津島村)

これまでの栽培されてきた作型に加え、新作型の試作を行うことで島内流通用野菜の収穫期の拡大を図った。また、島内有望品目の検討を行った。

(3) 島外流通用新品目の検討(神津島村)

レモンと青パイヤについて、自家消費等として栽培している事例を調査し、島外流通用新品目の候補となりうるか農協及び村役場と検討した。

2 流通システムの構築(新島村)

(1) 島内向け流通システムの構築 島内販売の組織づくり

販売組織設立や安定した運営に向け農家や農協を指導し、販売組織を設立させた。

(2) 島外向け流通システムの構築 市場外流通の取り組み

ECサイトの活用を希望する農業者や団体に対し、ECサイトを活用した販売についての荷姿や単価設定の検討などを支援した。

また、島外販売を希望する農業者や団体に対し、業者との商談を設定し提案資料作成の指導を行った。

3 特産品の安定生産(新島村・神津島村)

(1) サツマイモの生産拡大

品質の安定による反収増加を目指し、メリクロン苗を用いた技術を導入し、増殖・採苗など育苗について農家に指導した。

(2) パッションフルーツの安定生産

高温障害による落果や着色不良の対策として、換気等、施設内の環境改善技術の導入を図った。

(3) アシタバの安定生産技術の導入 技術の定着

ウイルス感染を防ぐため、アシタバ部会に対し、薬剤散布によるアブラムシ類の防除指導を行った。

(4) レザーファンの高品質化・病害虫の防除

アザミウマ等の防除はこれまで粒剤中心だったが、確実に防除を行うため、液剤による防除を現地検討会等で指導した。また、高齢等の理由から背負い動噴を使用できない生産者がいることから共同防除を提案した。



共同防除の様子

成 果

1 農業担い手の育成

(1) 島内用野菜生産農家の育成(新島村・神津島村)

新島村では、村独自の認証制度(所得100万円程度を目標とする)を受ける新たな担い手を3名増加させた。神津島では、直売所出荷者を2名増加させた。

(2) 島内流通用野菜生産の拡大(新島村・神津島村)

新島村においてトマト、スイートコーン、タマネギの3品目の収穫期を拡大した。

また、直売モデル作成に向け、直売農家の作付計画等の聞き取り調査を行った。

島内流通有望品目の検討に向け、上記3品目に加えサツマイモ、サトイモについて島内給食事業者に聞き取りを行った。

(3) 島外流通用新品目の検討(神津島村)

レモンについては試験的に栽培を行い、令和3年に試験的に島内外出荷を行った。

2 流通システムの構築

(1) 島内向け流通システムの構築 島内販売の組織づくり

販売組織として「新島村なえばの会」を令和3年6月に設立した。会員は13名。

(2) 島外向け流通システムの構築 市場外流通の取り組み

令和3年度に新島村農協あしたば部会がECサイトでアシタバ販売を開始した。

また、島外向け販路を1販路確保した。

3 特産品の安定生産

(1) サツマイモの生産拡大

無病苗の利用を提案し、メリクロン苗を用いた採苗方法を導入した。無病苗の安定生産体制を整えたが、出荷量3tには届かなかった。

(2) パッションフルーツの安定生産

換気による施設内の環境改善を図ったが、可販果の割合は増加に至らなかった。

(3) アシタバの安定生産技術の導入 技術の定着

農薬散布の指導を行ったことで、アブラムシやウイルス感染を軽減できた。

(4) レザーファンの高品質化・病害虫の防除

粒剤に加え、液剤による防除を導入した。また、共同防除を行う体制を確立した。

残された課題

1 農業の担い手の育成

- ・販売農家の1人増加を目指した、新たな担い手の確保に向けた機運の醸成
- ・新たな担い手の定着を目指し、農家が安定収入を得られるモデルの1事例作成
- ・島内向け品目について聞き取りを行った5品目に対し有望品目か検討

2 流通システムの構築

- ・「新島村なえばの会」の安定した運営体制の整備
- ・島外販路における取引先との調整を行う体制の構築

3 特産品の安定生産

- ・サツマイモ：メリクロン苗を用いたイモからの優良系統の選抜、収量3tの達成
- ・パッションフルーツ：可販率の向上を目指した遮光、防除技術の導入
- ・アシタバ：1000kg/10aを目指した夏場の遮光とかん水技術の導入
- ・レザーファン：共同防除体制の維持発展、防除タイミング等の指導